こども病院広報誌

茨城県立こども病院だより

令和５年３月28日　第55号

表紙写真：新生児救急車（ラッコ号）

指定管理者　社会福祉法人恩賜財団済生会支部茨城県済生会

医師の働き方改革への対応

病院長　新井　順一

新型コロナの流行以来、病院の感染対策業務はかなり増えましたが、現在は来年４月スタートの医師の働き方改革への準備も大変になっています。医師の働き方改革の目的の一つは、持続可能な医療提供体制を提供していくことです。厚労省の調査では病院常勤勤務医師の約４割が年960時間超、約１割が年1860時間超の時間外・休日労働をしていると報告されています。日本新生児成育学会が新生児科医の労働時間を調査した結果によると、年間の時間外労働が960時間を超える医師は58.0%にものぼっています。このような長時間労働を軽減するには新生児科医を含めた小児科医の育成が必要になります。また、女性医師割合が増えている中で、育児支援も重要であり、その分必要なスタッフ数は増加します。

この改革では、まず年間の時間外労働を960時間以内にする努力が重要になります。2024年４月からは宿日直許可のない業務時間外の労働はすべて勤務とみなされます。現在のいわゆる日当直業務について、宿日直許可を得ることができないとその時間帯の労働は、時間外勤務か、交代制勤務で対応する必要があります。交代制勤務の場合は、医師数が多ければ影響は小さいのですが、少ない医師数ですと平日昼間の時間帯に勤務する医師が減少し、専門診療や外来診療が難しくなります。また、長時間労働の場合には、勤務間インターバルを入れる必要があるので、勤務体制を組むのが難しくなる問題もあります。当院は、NICU、ICU、小児科当直（主に病棟と救急外来の２つ）の４つの日当直がありますが、今後の体制についてまだ準備中です。医師の働き方改革は長時間労働を改善していくことが重要な目的ではありますが、現状で医師の働き方改革に対応するには、かえって時間外労働時間が増加してしまうこともありえます。また、タスクシフトも限界があり、解決の一番の方法は医師数を増やすことですが、これにはかなりの時間が必要ですし、現状の診療報酬制度のもとでは収益が増えるわけではないので、病院の経営はさらに厳しいものとなります。厳密な医療安全対策、感染対策、そして厳格な労務管理など病院の業務は増加するばかりで、関係者の労働時間はどんどん増加しています。

一番恐れるのは、一時的にせよ今の小児医療体制、特に小児周産期救急医療が維持できなくなる地域がでてくることです。周産期医療、小児医療は、安心出来る子育て環境体制を作る上で土台になる重要な医療です。改革がスタートするまであと約１年ですが、準備期間を考えると半年もありません。どの医療機関も大変なことと思いますが、急激な変化で医療提供体制に重大な影響が出ないように関係者には配慮してほしいと思います。

当科で行なっている小児の内視鏡外科手術について

小児泌尿器科・小児外科　部長　益子　貴行

今日では内視鏡外科手術の適応が多岐にわたり、外科・泌尿器科・婦人科領域のほかにも、整形外科領域の関節鏡や耳鼻科領域の外耳から行う手術など多くの領域に適応が拡大しています。小児に対しても内視鏡外科は普及しており、他の領域と同様にその適応も広がっています。当科で施行している内視鏡外科手術には、腹腔鏡のみならず胸腔鏡、後腹膜鏡を用いた手術があります。

当科では手術に際して、患児のみならず保護者や家族にまで大きな不安がつきまとうことを忘れたことはありません。以前から、小児でもより低侵襲な手術が行えるように内視鏡外科手術を積極的に採用してきました。当科の指導医は3名全員が日本内視鏡外科学会の技術認定の資格を取得しています。この技術認定を小児外科領域で取得している医師は全国で55名、茨城県内では3名のみです。

内視鏡外科手術を行うことで得られるメリットとして、傷が小さいことがあげられます。安全性や根治性のために大きな傷が必要な手術もあるのですが、大きな傷はキズ痕の長さのみならず、その下の筋肉のダメージも大きくなるため、術後に体動のみならず呼吸ですら痛みを誘発することになります。痛みが強く、持続期間が長ければ、嫌な思い出としても残りやすいかもしれません。痛みが少なければ術後も体を動かしやすく、回復が早くなるというメリットも得られます。また、キズ痕は生涯残りますので、これから思春期を迎える小児にとって、できるだけ目立たない傷で精神的な負担とならないようにしてあげたいと思っています。患児にとって病気を克服した達成感は大きく、辛い記憶やその痕跡を小さくして、将来の糧にしてもらえたら外科医冥利につきます。また、患者側のみならず外科医側にもメリットがあります。カメラの画像を大画面で見ることにより拡大視が得られること、術野を大勢で共有できることがその一つです。よく見えること、大勢の目で確かめられることは安全面で大いに貢献できるのみならず、外科医にとっては教育的でもあります。

一方でデメリットもあります。そのうちの一つは操作制限があることです。小さな傷から挿入した器械でしか操作ができないこと、そのサイズの器械しか使えないため開放手術よりも時間がかかることがあります。ただし、我々外科医が日々の鍛錬を続けることによって操作制限を克服できると考えています。また、新生児や乳幼児の小さい体腔内での操作には成人用の器械が大きすぎることもあるので、当科では細径の器械も取り揃えて内視鏡外科手術を施行しています。

開放手術にも内視鏡手術にも各々のメリットがあります。わかりやすく説明したうえで、患者・家族の背景に寄り添った術式を選択し、高度な医療を提供し続けたいと思っています。

【当科でこれまでに行った内視鏡外科手術の例】胸腔鏡手術：食道閉鎖症根治手術、横隔膜ヘルニア根治術、肺葉切除術など。腹腔鏡手術：胃食道逆流防止術、胆道拡張症手術、膵腫瘍切除術、脾臓摘除術、ヒルシュスプルング病根治術、鎖肛根治術、虫垂切除術、鼠径ヘルニア根治術、腎尿管摘除術など。後腹膜鏡手術：副腎腫瘍切除術、腎盂形成術など。

胎児心臓外来、胎児心エコーについて

小児循環器科　副部長　林　立申

心臓大血管は、生命維持に必須の器官として、全身臓器のなかでもっとも早期に発生が始まり、形つくられていきます。母体妊娠週数に換算すると、胎児心臓は妊娠第５週頃に形成が開始され、複雑な過程を経て妊娠第10週頃にはほぼ完成されます。そして胎児期からすでに体に酸素や栄養を供給しはじめています。

先天性心疾患について

先天性心疾患の発生頻度は約１％と言われており、そのほとんどは上記の発生過程の特定の領域や時期に生じた異常が原因と考えられています。「生まれつきの心臓病」と聞くと、大変重篤なイメージをもたれることが多いですが、実際は多くの先天性心疾患は軽症です。一方で中等症から重症疾患のなかには出生後にすぐに治療が必要なものもあります。

胎児心エコー検査とは

胎児心エコー検査は、胎児の小さい心臓を心疾患の専門知識を用いて診断する、比較的専門性の高い検査です。当院は学会認定された胎児心エコー専門施設として登録されています（茨城県内で３施設、県央～県北は当院のみ）。（これまでの実績）

胎児診断のメリット

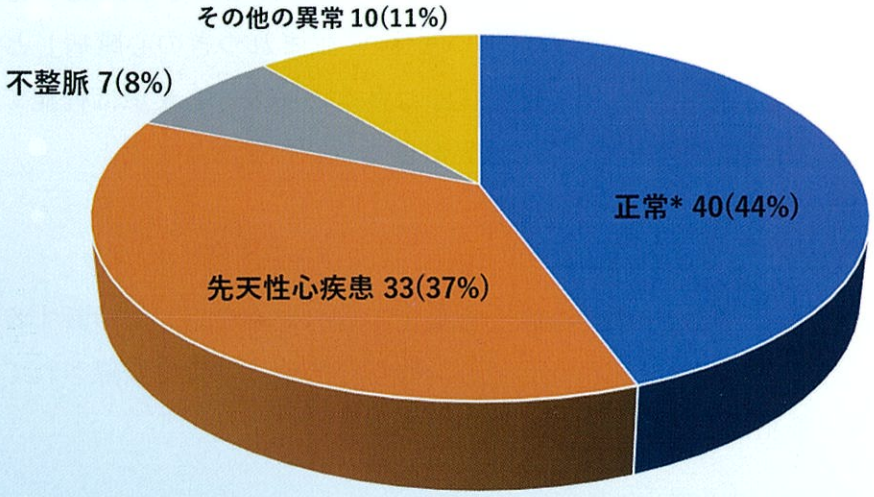
重症先天性心疾患の胎児診断がされていない場合、出生後に緊急で患児を治療できる施設に搬送することになります。搬送中にさらに全身状態が悪化、あるいは搬送に耐えられない場合もあります。児の状態が悪い場合、速やかに正確な診断をつけ、手術を含め適切な治療を計画することはかならずしも容易ではありません。ご家族にとっては事前情報がなく、限られた時間内でお子さんの病気を理解し、手術を受けるなどの決断をしなければなりません。一方で胎児診断が行われていれば、余裕をもって疾患について家族と情報共有し、分娩施設の選定、出生後の治療計画など、一緒に児の誕生を迎える準備ができます。重症な心疾患を持って生まれる赤ちゃんに十分な治療を受けていただくために胎児診断は非常に大切で重要なことと考えます。

胎児心臓外来の実際と私たちの取り組み

外来では担当となるプライマリーナースと一緒に問診をし、胎児心エコー検査を行います。検査は母の体調を配慮しながら約15-30分程度行い、家族の立ち合いも可能です。検査後にエコー所見、想定される血行動態や出生後の治療などについてスケッチを描きながら説明します。プライマリーナースは両親の心理状況、家族背景などの情報収集を行い、必要に応じて新生児病棟の案内などをします。

胎児診断された症例について循環器科医、新生児科医、新生児病棟スタッフ、ソーシャルワーカーなどと毎週合同のカンファランスを行い、胎児診断、治療方針、家族背景などについて情報の共有をしています。出生され入院中の患者さんは臨床経過や退院に向けて必要な準備などについてみんなで検討しています。カンファランス内容についてICUスタッフ、心臓血管外科、周産期センター（産婦人科）とも随時情報交換をしています。このように出生前から退院までさまざまな視点から児のことを考え、最適な医療を途切れることなく提供できるよう努めています。

2年間の胎児診断の内訳(90人、187検査)



(2021, 2022の2年間;
* 軽症心疾患を含む)

合同カンファレンスの風景

ボランティア紹介

Histar' Snow ★ Tsukuba（ヒスターズナウ・つくば）

こども病院では様々なボランティアにご協力いただいています。しかし2020年からはコロナ禍で病院内でのボランティア活動は制限せざるを得ない状況が続いており、それまで外来ブースで行っていたオルガン演奏や、病棟へのハロウィンパレードなどが行えず、病院内でお子さんたちに楽しんでもらえるイベントが少なくなっています。一方で、図書やマスク、患者用の帽子などの寄付依頼があり、大変ありがたく活用させていただいています。

今年度、つくばで小児がん支援を行っている「Histar' Snow ★ Tsukuba」（ヒスターズナウ・つくば）さんより、お子さんとご家族のために当院でも何かお手伝いができないかとボランティア活動の希望があり、今回は装飾用・配布用のバルーンとご家族への寄付の品をいただきました。

クリスマスの時期に合わせて成育在宅支援室前のライトコートにバルーンでの飾り付けをしていただき、主に外来受診に来たお子さんとご家族に楽しんでいただきました。なかには写真撮影をしているご家族もおり、ひとときの安らぎになったかと感じました。また、入院中のお子さんには手持ちのバルーンをいただき、クリスマスプレゼントと共に配布したところ、好きな絵のバルーンを選び「かわいい！」と喜ぶ姿が見られました。

個室で付き添いをしているご家族へ向けた寄付の品もいただきました。インスタントコーヒーやマスクスプレーなどが入っており、ご家族からは「私へのプレゼントのようでとても嬉しいです。付き添いは大変ですけど頑張ります。」や「気にかけてもらえていると思うだけで嬉しいです。」などの言葉が聞かれ、大変好評でした。

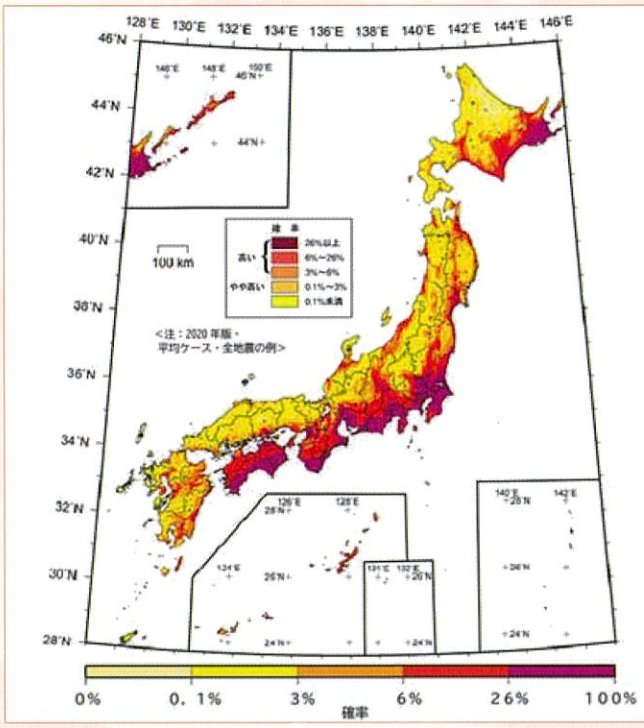
Histar' Snow ★ Tsukuba さんは今後もボランティアとして関わっていただけるとのことで、大変ありがたく思っています。

（成育在宅支援室　深谷美紀子）

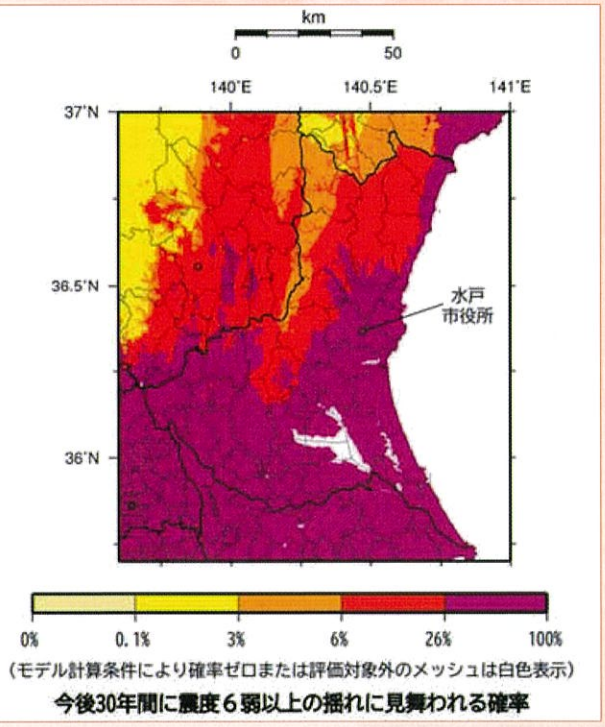
震災を想定した災害訓練について

全国各地で震度６弱以上の巨大地震に襲われる確率などを示した「全国地震動予測地図 2020 年版」によると、水戸市は 30 年以内に震度６弱以上の地震に襲われる確率が 80.6％となっており、都道府県庁所在地の中で最も高い確率となっています。

全国図



茨城県拡大図



出典：全国地震動予測地図 2020 年版

このため、こども病院は消防法における防災管理の法定規模以下のため、義務ではありませんが、地震を想定した災害訓練を令和２年度から実施しており、今年で３回目の訓練を実施しました。

訓練は災害対策本部の設営から、情報の収集・発信や通信手段の確保などを実施しています。

いつか起こるであろう災害に向けて、慌てることなく対処できるよう訓練を続けていきたいと思います。

（施設管理課　菅野谷　和也）

企画編集　茨城県立こども病院広報委員会
〒311-4145 水戸市双葉台 3-3-1
TEL 029-254-1151　FAX 029-254-2382
URL http://www.ibaraki-kodomo.com/

発行責任者　茨城県立こども病院
病院長　新 井 順 一